

2026年1月1日

説教「聖なる御名を誇りとせよ」

詩篇 105 篇 1～11 節

2026年の元旦礼拝です。新しい年を迎えたこの朝に、詩篇から御言葉をいただいでいきましょう。

## 1. 主にほめ歌を歌え (1～4 節)

### ①御名を呼び求めよ (1)「主に感謝して、御名を呼び求めよ。そのみわざを国々の民の中に知らせよ。」

この詩篇は「感謝せよ詩篇」と呼ばれる詩篇の一つです。いきなり「感謝せよ」で始まっているからです。主に感謝することを忘れがちな者たちにいきなり、「感謝せよ」と述べた直後には、「御名を呼び求めよ」と勧められます。御名は主の御存在のことです。「わたしを呼べ。そうすれば、わたしはあなたに答える」とエレミヤ書 33:3 にはありますが、「呼ぶ」というのは叫ぶという意味でもあります。必死に主に向かって叫び求めるのです。そして、さらにその勧めは「主のみわざを国々の民の中に知らせよ。」主のなしてくださったみわざについて、この詩篇では 16 節以下で確認されていきます。

### ②主に歌え (2)「主に歌え。主にほめ歌を歌え。そのすべての奇しいみわざに思いを潜めよ。」

信仰者たちへの勧めは、賛美をすることへと進みます。「主に歌え。主にほめ歌を歌え」。賛美されるべき方は主のみ。主に向かって、ほめ歌を歌うのです。そして、そのなしてくださった奇しい出来事を深く心のうちに潜めよというのです。神の民になしてくださったすばらしい御業をいつも心に留めよといのです。

### ③主の御顔を慕い求めよ (3～4)「主の聖なる名を誇りとせよ。主を慕い求める者の心を喜ばせよ。主とその御力を尋ね求めよ。絶えず御顔を慕い求めよ。」

主は聖なる方であるので、この方を見上げる時に、信仰者は自らの罪を意識することでしょう。悔い改めにも導かれるでしょう。赦しをくださる主は信仰者の誇りとなるのです。信仰者への勧めの言葉はまだ続きます。「主を慕い求める者の心を喜ばせよ」。主を呼び求めることを促し合うことが大切なのです。さらに、「主とその御力を尋ね求めよ。」「絶えず御顔を慕い求めよ。」と、続きます。

## 2. 主の奇蹟とさばきとを思い起こせ (4～7 節)

### ①みわざを思い起こせ (5)「主が行われた奇しいみわざを思い起こせ。その奇蹟と御口のさばきとを。」

2 節での勧めが繰り返されます。主が行ってくださったことのなかで、イスラエルの民が共通していつも覚えさせられたのが、出エジプトの出

来事でした。エジプトを脱出するときのことです。主はエジプト軍の追跡に対して、海をも分けて進ませていただきました。こうしたことはいつも思い起こさねばならないことでした。

②アブラハムのすえ (6) 「**主のしもべアブラハムのすえよ。主に選ばれた者、ヤコブの子らよ。**」

神の民にとって、アブラハムは始祖です。かれらはその子孫でした。そして、さらにイサクの子であるヤコブとその子孫たちは、主に選ばれた者達でありました。ここでは、そうした選びの民に呼びかけられています。

③この方がわれらの神 (7) 「**この方こそ、われらの神、主。そのさばきは全地にわたる。**」

民を導いてきてくださったこの方こそが、私達の神なのだよ、と確かめの言葉が述べられて、その方の御支配、さばきは全世界に及んでいくのだということが約束されていきます。

3. アブラハム、イサク、ヤコブとの契約 (8~11 節)

①千代にも及ぶみことば (8) 「**主は、ご自分の契約をとこしえに覚えておられる。お命じになったみことばは千代にも及ぶ。**」

主なる神は契約の主です。信仰者は主との恵みの契約に浴している者たちです。そして、その恵みの契約はその時限りのものではありません。その契約はとこしえに覚えていただけるものなのです。「わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施す」(出エジプト 20:6)とある通りです。

②その契約は (9) 「**その契約はアブラハムと結んだもの、イサクへの誓い。**」

アブラハムに対して、主は「あなたを大いなる国民とし、あなたを祝福しあなたの名を大いなるものとしよう」(創世記 12:2)と契約してくださいました。その約束は子のイサクにも受け継がれました。「わたしはあなたとともにいて、あなたを祝福しよう。」(創世記 26:3)と約束をしてくださっています。

③永遠の契約 (10~11) 「**主はヤコブのためにそれをおきてとして立て、イスラエルに対する永遠の契約とされた。そのとき、主は仰せられた。『わたしはあなたがたの相続地として、あなたにカナンの地を与える。』**」

アブラハムからイサクへつながれた契約は、ヤコブへと受け継がれていきます。「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、主である。わたしはあなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫とに与える」(28:13)。ヤコブへの契約はイスラエルとなった後にも、改めてなされています。「わたしはアブラハムとイサクに与えた地をあなたに与え、あなたの後の子孫にもその地を与えよう」(35:12)。この契約はイスラエルに対する永遠の契約でもありました。

《展開と結論》

2026 年の元旦礼拝。

今朝、読んでいる詩篇 105 篇には「主に感謝せよ」から始まって、「御名を呼べ」「主にほめ歌を歌え」「奇しいみわざに思いを潜めよ」「聖なる名を誇りとせよ」「御力を尋ね求めよ」「御顔を慕い求めよ」と、立て続けに勧めがなされました。それらは、神の民が信仰の原点に立つべき点が示されています。その後、アブラハム、イサク、ヤコブとの間に、主が結んでくださった永遠の契約のことが明らかにされています。そして、その契約はその後に続く神の民に語られたことです。確認したいことは、それらはキリストによって救を与えられたクリスチャンにも語られていることをまずは覚えたいのです。

そして、これらの勧めの言葉のなかの、「主の聖なる名を誇りとせよ」というお言葉に目がとめ、掘り下げていきます。黙示録 4:8 節には「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。神であられる主。万物の支配者。昔いまし、今いまし、後に来られるかた」とあります。ここに聖なる方は「神であられる主」とありますが、これはどなたを示しているのでしょうか。主イエス・キリストです。このような聖句があります。「キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。」(I ペテロ 2:22)。一方、「すべての人が罪を犯した」(ローマ 3:23)とあるように、人間はすべからず罪人です。しかし、イエス・キリストは人間として世に来てくださいましたが、神なる方です。だからこそ、一度も罪を犯したことがない方なのです。「聖なるお方」なのです。その方は「ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。そして自分から十字架の上で、私達の罪をその身に負われました。」(I ペテロ 2:23~24)とあります。聖なる方だからこそ、私達の罪を負うことができたのです。私達はこの方を信じる信仰によって救われたのです。それゆえに、この主イエス・キリスト信じて歩むことを、別の言い方でいえば、この方の聖なる御名を誇りとして生きることです。それでは、それはどのように生きることですか。さきほどの第一ペテロ 2 章 24 節以下にこのようにあります。「私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。あなたがたは羊のようにさまよっていましたが、今は、自分の魂の牧者である 監督者である方のもとに帰ったのです」(I ペテロ 2:24~25)

かくして、2026 年の元旦も、もう一度、私達はキリストの十字架の福音へと戻されました。十字架の主を覚え、この主を仰ぎつつ生きることが、聖なる御名を誇りとする事なのです。主の福音を私達の周りにいる方々に伝えていくことこそその意味です。

この年に起こる様々なことについて、私達はわかりません。しかし、いつも十字架の福音という原点に戻ることが肝心です。「私は福音を恥とは思いません。」(ローマ 1:16)とありますが、「主の聖なる名を誇り」として、聖なる主イエスを今年も見上げていきましょう。